

「神殿で献げられる」

2022年12月30日

され、モーセの律法に定められた清めの期間が満ちると、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。それは主の律法に、「母の胎を開く初子の男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。（ルカ福音書2：22～23）

シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。「主よ、今こそあなたはお言葉どおり / この僕を安らかに去らせてくださいます。私はこの目であなたの救いを見たからです。」（ルカ福音書2：28～30）

イスラエルの律法では、男児が生まれた場合、母親は40日間、清めの期間が満ちるのを待つ、また、「すべての初子を聖別して私に献げなさい。人も家畜も、イスラエルの人々の間で初めに胎を開くすべての初子は私のものである（出エジプト13：2）」と定められ、献げる時は、貧しい夫婦の場合、「山鳩二羽か若い家鳩二羽を取り、一羽は焼き尽くすいけにえに、もう一羽は清めのいけにえにしなさい（レビ記12：8）」と規定されている。

ヨセフとマリアは、律法通りの清めの期間が満ちた時、イエスを献げるために、既定の献げ物を持って、エルサレムに連れて行った。その時、エルサレムにシメオンという人がいた。彼は正しい人で信仰が篤く、神が遣わすメシアを見るまでは死ぬことはないとお告げを受けていた。シメオンが聖霊に導かれ、神殿の境内に入った時、ヨセフとマリアが幼子イエスを、律法に従って献げようとしているのに出会った。シメオンは幼子イエスを腕に抱き、神をほめたたえて言った。「主よ、今こそあなたはお言葉どおり / この僕を安らかに去らせてくださいます。私はこの目であなたの救いを見たからです。」シメオンは、幼子イエスに神の救いを与えるメシアを見て、安らかに、この世を去らせてくださると歓喜の叫びを上げている。続いて、「これは万民の前に備えられた救いで / 異邦人を照らす啓示の光 / あなたの民イスラエルの栄光です」と述べている。幼子イエスは異邦人を照らし、イスラエルの栄光で、全ての国民の救いである。老シメオンは、幼子イエスにメシアを見て、喜びの声を上げ、万民に救いを与えてくださった神を賛美した。

ヨセフとマリアはシメオンの突然の言葉に驚いた。シメオンは二人を祝福し、母マリアに三つのことを言った。一つに「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定められ」ている、である。この幼子は、神に従う者と敵対する者とを分ける分水嶺になるように定められている。二つには「反対を受けるしるしとして定められています。剣があなたの魂さえも刺し貫くでしょう」である。幼子は人々から反対され苦難を負い、それを見て、マリアの魂は剣で刺し貫かれるような苦しみを味わう。十字架の前で嘆き悲しむマリアを預言している。三つには「多くの人の心の思いが現れるため」である。人々の救われたいという思いが幼子において実現すると言う。

アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は7年間、夫と共に暮らしたが、やもめになって84歳になっていた。神殿を離れず、夜も昼も断食と祈りをもって神に仕えていた。彼女も幼子イエスに近づき、神に感謝し、エルサレムの贖いを待ち望んでいる人々皆に、幼子イエスのことを語った。神殿で、二人の老人が、幼子イエスによる救いを預言したのである。幼子イエスはナザレに帰り、成長し、強くなり、知恵に満ち、神の恵みが注がれた。

著者ルカは、二人の老人を通して、幼子イエスはメシアであると記している。